

## 若者の「読書力」の育て方

むろだて  
いさお  
室館 勲

(株式会社キャリアコンサルティング)  
代表取締役社長



「二〇一七年、『一日の読書時間ゼロ』は大学生全体の五三・一％に」（第五十三回学生生活実態調査 全国大学生生活協同組合連合会）

衝撃の数字です。二〇一二年の三四・五％から年々増えてきました。様々な要因が検証されていますが、その要因は大きく二つあると思います。

- (一) 本を読まなくても、大学生になれる。そして大学卒業もできる。
- (二) そもそも本を読みたいという欲求が薄い。

(一)については、学校教育の根幹の問題ですので、今回は(二)に関して意見を述べます。恥ずかしながら私は元々、マンガが大好きで活字が大の苦手でした。社会人になってからも、新聞や小説の類はほとんど読みませんでした。仕事上の必要性から、ビジネス書や雑学の本を簡単なものから読み、最終頁を読み終えた時の達成感や感動を味わう経験をしました。少しずつ量を増やしていくと、歴史の本や分厚い本も読みこなせるようになっていきました。

そしてついに、(二)回の挫折の後でしたが)山岡荘八著『徳川家康』全二十六巻

(講談社)を読破することができました。九か月かかりましたが、大きな自信になりました。以後、読書体力がついたので、分厚い本に出会っても臆することなく手に取ることができるようになりました。

経営者として、ニュースや新聞記事、歴史や時事問題の本を読み、役員や管理職と意見交換をする機会も増えました。読書スピードが速くて読解力のある社員は、本心に頼りになります。

ただ、普段多くの若者と接する中で、読書が好きな人ははっきり言って少数派です。ですから、キャリアアコンサルティングに通う若者達には「本を読む習慣こそが将来の幹部・リーダーへの近道だ」と指導しています。では読書の習慣をつけさせるためにどうするか。

文字が大きくてページ数の少ない本を最初の課題図書にしています。すると、野球部出身で本が嫌いな、とある学生が興奮して私に言いました。

「本を一気に読んだのは生まれて初めてです。自信になりました」

心から嬉しかったです。読書力は、やればやった分だけ確実に伸びます。

本が苦手な人は、わからない部分があった途端に挫折してしまうことが多いようです。私は「わからないところは飛ばしなさい。その部分のご縁がなかったと思って、わかる部分だけを読めばいい」と指導し、本に支配されるのではなく「自分が本を制する」感覚を教えています。

簡単に確実な一歩を上手に踏み出させることが若者の読書力を伸ばすことに繋がるのです。